第135回日本森林学会大会 第11回高校生ポスター発表

熊本県立矢部高等学校

林業科学科２年　佐伯ふみ・清原　健・秋山響希・本田千秋
１年　江藤　新・高宮成弥・高山夢都・鳥井太賀
増田元輝・松井陸斗・松本爽跳
岩崎凜将・山下絢桜・村山　駿

「林業のちから×ふくしの心」
～木づかいですべての人に健康と福祉を～

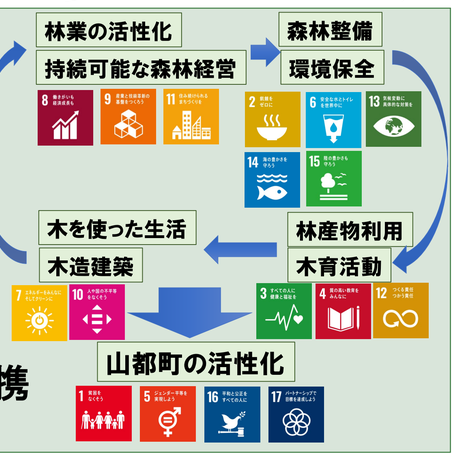
1　活動目的

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS　Think globally Act Locally

私たちはこれまで、木材を活用して地域に貢献できる活動を実践することで、元気な山都町、持続可能な山都町にしたいと考え、次の仮説に基づき行動してきた。

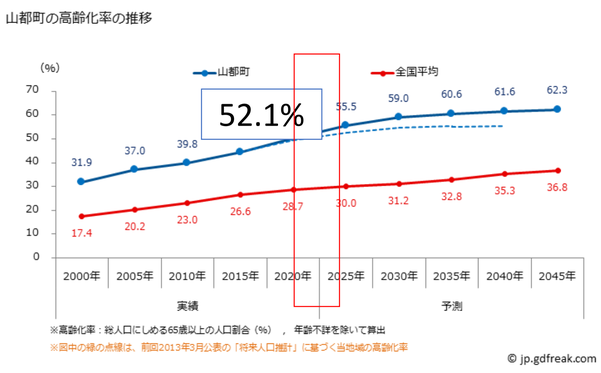
仮説「**林業のちからを福祉分野に生かすことが、木育やSDGsにつながる**」

今回は、令和3年度から本格的に開始した**林福連携**の取り組みを報告する。



2　活動内容

（活動１）すべての人に健康を



高齢化率52．1%、県内で最も高齢化率が高い山都町の課題を解決するために林業や木材加工の知識や技術を活用して、私たちが貢献できることを考え、端材を使った積み木を山都町社会福祉協議会（社協）に紹介したところ、認知症予防パズルの第一人者の（株）Re学の川畑智氏を紹介していただいた。令和3年度、社協とRe学の協力で、認知症予防パズル「好きっ！通潤パズル」を開発し、町内の福祉施設や地域のサロンに100セット無償配布した。令和4年度からは年間200個の製造計画を立てて本格的に販売を開始した。

①　パズルの製造

パズルの製造は林業科学科の2，3年生全員で、林産物利用や総合実習等で行っている。製造及び納品の計画は次のとおり、治具を使って効率よく製造することにした。

製造には治具を活用して手作業でも規格の揃った均一な製品を作り、品質保持のために、検品表を使い製品のばらつきをなくすなどの工夫をした。

製造計画　令和５年度　計２００個

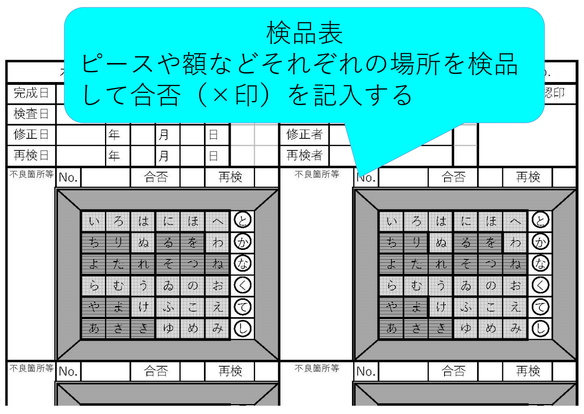
４～５月	10～11月	12～1月	２～３月
５０個	５０個	５０個	５０個

令和5年5月分		令和5年11月分		令和6年1月分		令和6年3月分	
名前	個数	名前	個数	名前	個数	名前	個数
個人	2	朝日	2	八日会	1	山都町	21
水曜会	8	個人	3	橘	3	熊本市	19
市の原	6	ふるさと納税	20	仏原	7	八代市	3
八日会	5	下名連石	2	檜原	6	神奈川県	2
ひまわり	9	下矢部東部	9	はあとふる	1	合志市	1
そよ風の里"ほたる"	4	御所	5	Re学	30	荒尾市	1
下名連石	10	清北	3	彩雲苑	2	御船町	1
朝日	6	明星学園	6			甲佐町	1
						津奈木町	1
	50		50		50		50

②　好きっ！通潤パズルの販売

令和4年2月1日に社協のホームページを通じて告知し、予約を開始したところ、開始直後から社会福祉協議会の電話やFAXが鳴りやまず、初日で190個の申し込みがあった。1年分の製造数は200セットであり、2日目には1年分の予約がすべて埋まってしまった。

町内の福祉事業所や地域の代表のほか、SNSでの発信の効果もあり、県外からの注文も入るようになり反響の大きさに大変驚いた。令和5年度は200個、令和6年度は100個受注し、現在は受付をストップしている。



③　第2段に向けて

数多くの注文に応えるために、今後は、福祉作業所などの協力を得て作業工程の分業をするとともに、県内の林業高校にも技術提供し、同様の課題を抱えるさまざまな地域と連携した取り組みにしていきたい。また、第2弾の企画にも入っており、この取り組みをさらに広げていきたいと考えている。さらに、「好きっ！通潤パズル」の商標登録も行い、本校林業科学科の製品として今後もこの取り組みを継続していきたい。

（活動２）木づかいをひろげる

①　木育活動

林業科学科では、大人から子どもまで様々な人に木の温もりや木を使うことの大切さを伝える「木育」の取り組みを、県内の様々なイベントで長年続けている。また、端材を使った積み木などを製作し保育園に寄贈する等の活動も行い、小さい頃から木に親しむ取り組みを行ってきた。

「かどっこ♡のくまモンストラップ」製作体験

②　山都町“ウッドスタート”

山都町では令和6年度から、森林環境譲与税等を活用した独自のウッドスタート事業を検討されており、本校の取り組みを知った町の担当者の方と実現に向けた話し合いを進めている。赤ちゃんの定期検診に合わせて木のおもちゃをプレゼントする取り組みで、木のおもちゃを私たちが考えて、製造は町の木工所が行うことで、授業で行っている他の木工品製造に影響がないようにする計画である。

端材を活用した積み木

（活動３）木づかいですべての人に福祉を

①　福祉を学ぶ高校生との連携

木材を使った福祉用具などを製作する中で、熊本県内で福祉を学習している高校生と協力して何か新しいことができないかという意見があり、上天草高校福祉科と連携することした。

令和4年度は、上天草市立中南小学校の特別支援学級の児童向けのボッチャランプ（勾配具）を製作し、ボッチャ協会の先生からアドバイスをいただいた。

完成したボッチャランプを上天草高校を通じて小学校に寄贈していただいた。通常学級の同級生と一緒にボッチャを楽しむのに適したもので、喜んでもらえた。

②　特別支援学校の児童・生徒との交流

令和5年度は、熊本県教育委員会特別支援教育課指導主事の先生から特別支援学校でボッチャに取り組んでいるところがあり、連携してみてはどうかと提案があり、上天草高校と協力して松橋支援学校と松橋東支援学校とのボッチャによる交流を行うことになった。

ボッチャランプについて、上天草高校と特別支援学校の先生と話をして、車椅子のテーブルからそのまま投球できる仕組みにし、試作品を作って支援学校を訪問したときに行ったボッチャ大会で試していただいた。また、　交流会では、矢部高生から漫才を披露したり、上天草高校が準備したユニバサルeスポーツ体験などを行い、楽しい交流ができた。

③　特別支援に関する教材づくり

ボッチャランプなどの児童・生徒が楽しめる福祉用具の製作を行い特別支援学校との交流を行うなかで先生方から、そのほかにも教材を作ることができないかと相談があった。そこで、上天草高校から全国の盲学校向けの教材を製作・提供している、熊本大学工学部公認サークル「ソレイユ」と連携してはどうかと提案があり大学の先生からお話を聞くことになった。

ソレイユ主催の熊大技官　須恵先生

ソレイユでは様々な補助金を活用して全国の盲学校（67校）にスイッチやセンサなどを使って手触りや音で学習をすることができる教具を寄贈されている。製造はこれまで学生だけで行っていたが、NPO法人を立ち上げて月一回のワークショップを開き、製作体験を兼ねたボランティアで参加者に製造を手伝ってもらっているそうだ。

盲学校向けの教材開発について学習

私たちの認知症予防パズルも、授業の中での製造には限界があるので支援学校向けの教材開発のヒントと共に、生産方法の参考になる講話だった。

④　林福連携の今後の取り組み

上天草高校や特別支援学校2校と協力して、ボッチャランプを今後は教材として製作することにした。特別支援学校の先生方のアドバイスをいただいて改良を進め、県内の特別支援学校に寄贈できればと考えている。

支援学校と連携して今後改良

3　木づかいですべての人に健康と福祉を！

①　取り組みの普及・広報活動

- 熊本県学校農業クラブ連盟年次大会プロジェクト発表会分野Ⅲ類　優秀賞
- 九州森林管理局主催　森林・林業の技術交流発表大会　優秀賞
- 熊本県認知症になっても安心して暮らせるまちづくり功労者　知事表彰
- くまもとSDGsアワード2023　入賞
- 全国がんばる林業高校生表彰　全国林業研究グループ連絡協議会会長賞
- 第19回アジア農業シンポジウム　ポスター発表
- 国産木材の魅力発信拠点「MOCTION」企画展示会(in東京)パズル展示
- 國立臺北科学技術大學附屬桃園農工高級中等学校への活動紹介
- 環境で地域を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業　活動発表
- 2023年SDGs QUESTみらい甲子園 熊本県大会　最終審査
- 第2回「好きっ！通潤パズル」大会　in矢部高校文化祭

この一年でさまざまな発表会や会議等で私たちの活動を発表する機会をいただき、多くの人に私たちの活動を紹介することができた。この活動を通じて、専門家や関係者の方から温かい声かけとアドバイスをいただき、人と人とのつながりで私たちの活動が広がっていくことを実感した。

第２回パズル大会開催

私たちの活動の合い言葉

山都町サステナブル！

②　おわりに

木材を活用したものづくりで地域や他校生とつながることができ、認知症予防パズルやボッチャランプ、ウッドスタートなど、林業技術を福祉分野で生かすことで、木づかいの大切さを伝えることができた。

私たちの林福連携の取り組みは、様々な人たちの協力のおかげで、活動の幅を広げることができている。今後も林福連携の取り組みを通じて、山都町の活性化につながっていく取り組みにしたい。